



南房総市ナイトタイムエコノミー促進調査事業

コンソーシアム名：野島埼灯台利活用プロジェクト委員会

対象灯台：野島埼灯台（千葉県南房総市）

調査検証報告

野島埼灯台（千葉県南房総市）

コンソーシアム名

野島埼灯台利活用プロジェクト委員会

構成団体

一般社団法人南房総市観光協会
株式会社ビクセン
近畿日本ツーリスト株式会社

南房総市ナイトタイムエコノミー促進調査事業

1.調査・検証概要

調査検証を構想した背景

◎都心から90分というアクセスの良さから、宿泊せずに日帰りで観光を楽しむ方々や、観光地の動線上、千葉県内の他エリアに宿泊をしてしまい、市内消費額が上がらない課題を抱えている。課題解決のため、ナイトタイムエコノミー振興に寄与する観光コンテンツの整備を市内観光事業者とともに進めている。定期的な夜間特別開放のコンテンツを整備することで、特に日帰り客に対して、当地域内で宿泊を促進させる動機づけとしていきたい。

◎日本で登れる灯台16基のうちの1つであり、観光地としても整備されているが、現在まで積極的に観光資源として活用がなされていなかった。

◎南房総市では、「星空保護区」認定に向けて申請準備・街灯整備を進めている。南房総市は海に囲まれた立地のため光が少なく、星空鑑賞にも適した場所である。もともと閑散期であった『冬』は星空を鑑賞するのに適した季節であり、夜星空を鑑賞するためには、南房総市に宿泊することにつながる。まだ、羅針盤や海図やコンパス等の近代計器が存在しなかった頃、人々は夜空に輝く星の位置を手掛かりにして航海(スターナビゲーション)をしていた。海に関わる「灯台」と「星空」を掛け合わせ、南房総の地域性を生かした新たな活性化に向けた機会創出につなげていきたい。



2.調査検証の目標～明らかにしたい仮説

「野島埼灯台×星空」イベントは収益化と継続実施が可能で、実施により、南房総市のナイトタイムエコノミー促進に資するのか？

survey 01

野島埼灯台の基礎調査

◆野島埼灯台の造成された背景や役割等に関する文献とりまとめ

- ・海上保安庁から以前情報提供を受けているCDROMの見返しを行い、利活用へつながるヒントがあるかの掘り起こす調査を行う。

◆仮説の検証

- ・野島埼灯台のナイトタイムイベントを実施する場合は、交通アクセスが課題となっており、バス・タクシー会社が連携できるか検証を行う。

◆仮説の検証

- ・灯台の案内を外部ガイドに頼らず内製化できるか検証する。
(今後の横展開のため、ビクセン社員が灯台～星空まで一貫して実施できることを目指す)

◆事業効果予測

- ・事業が社会や地域等に与える効果に関する予測



survey 02

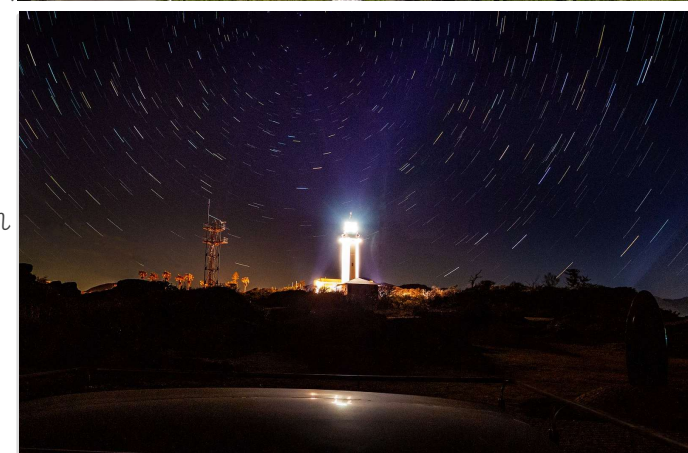
ツアー造成と収益事業化検証

◆モニターツアー実施

野島埼灯台の特別夜間解放と望遠鏡メーカーのビクセンスタッフによる天体望遠鏡と双眼鏡を使った星空観察会を実施。野島埼灯台の説明は"灯台女子"の不動まゆうさんを招き、灯台の持つ歴史と役割・野島埼灯台が担った役割、灯台の光の美しさなどの楽しみ方を伝えていく。羅針盤や海図やコンパス等の近代計器が存在しなかった頃、船乗りたちが夜空に輝く星の位置を手掛かりにして航海(スターナビゲーション)をしていたことを踏まえ、夜間特別開放される野島埼灯台の踊り場から、双眼鏡で月や星、夜景を眺める。その後、野島埼園地へ移動し、太平洋を昇る月や惑星を望遠鏡で、四季折々の星座を双眼鏡で観察する。一目見ると寿命が延びると言われている縁起の良い星『カノープス』を見ることが出来る数少ない場所という南房総の地域性を活用し、この場所ならではのコンテンツに仕上げる。※カノープスは、南の低空(水平線上)にしか見えず、南房総の漁村「布良(めら)」でよくみられることから、本地域では『布良星(めらぼし)』とも呼ばれている。南極老人星と呼び、見れば長寿を得るといわれている星でもあるが、本地域でのみ、海が荒れる前兆と恐れられた布良星伝説が残っている。

◆「野島埼灯台の星空タイムラプスムービー」の製作

永続的に活用し野島埼灯台および星空の魅力を広く発信する。





のじまさきとうだい
野島埼灯台

基礎 データ 	初点灯	明治2年12月21日
	灯台の高さ	地上から構造物の頂部まで 29メートル
	灯りの高さ	地上から灯火まで 24メートル
	灯質	単せん白光・毎15秒に1せん光
	光達距離	17.0海里（約31km）
	レンズ	フランス製フレネル式レンズ
	構造	白色コンクリート造
	形状	八角形塔型
設計者	フランス人技師 レオンス・ヴェルニー	

設置された経緯



開国の歴史を飾る慶応2年にアメリカ、イギリス、フランス、オランダの4ヶ国と結んだ「江戸条約」により、建設を約束された灯台の1つです。野島埼は東京湾に出港する船舶にとって、江戸時代から大切なポイントとして重要視されてきました。開国に際し、洋式の灯台を建設することにあたり、明治2年1月1日に、1番最初に点灯した対岸の観音埼灯台に呼応して、明治2年1月10日に木造四角檣型の仮灯台を点灯し、2月14日本灯台の工事にかかり、12月18日に完成しました。

関係者インタビュー（抜粋）



（株）ピクセン
灯台女子
灯台解説に初挑戦！

引地道子氏

「初代灯台は関東大震災により倒壊した」と解説した際、参加者から大きなため息と悲しみの声が上がりました。日本の歴史と灯台の歴史が重なったとき、より身近に灯台を感じたからこそその反応でした。倒壊してしまった初代灯台の初点プレートが日本語版・フランス語版と2枚現存していることも見どころの1つです。



千葉
海上保安部
海の安全を守る若き力！

田場友依登氏

昨年に引き続き、野島埼灯台の夜間特別開放を行いました。イベント参加者に実際に使われているフレネルレンズを間近で見て頂き、【レンズの意味】を考える機会になったことが嬉しく思います。今後も、多くの方と灯台に関する知識を共有し、灯台の利活用について様々な可能性を探ってまいります。

かつて「海の道しるべ」として 船乗りを導びいた星と灯台

灯台は、光や塔体で船乗りには位置を示し、
暗礁などの危険を知らせる「海の道しるべ」。

羅針盤・海図・コンパス等の近代計器が存在しなかった頃、
人々は夜空に輝く星の位置を手掛かりに航海をしていた。

星は古来から「海の道しるべ」として、灯台の光と同じ役割を果たしてたのである。

野島埼灯台は日本最初の洋式8灯台のひとつで、
千葉県房総半島の最南端の岬の地から、
今も安全な航海を守り続けている。



野島埼灯台の基礎調査

野島埼灯台が造成された背景や役割等に関する【野島埼灯台150年のあゆみ】を南房総市観光協会のHP内追記

時系列ごとに12枚のスライドを作成し、野島埼灯台の歴史を記載した。



1. 野島埼について

野島埼は昔、今と違って離れ小島で、風光明媚な景色となっていたそうです。当時の人々がこの離れ小島に社を献じて、巖島神社として祭ったそうですが、これが現在野島埼灯台の入口手前、灯台に向かって左側にある神社です。

この離れ小島が、元禄16年11月23日（西暦1703年12月31日）午前2時ころ、野島埼沖を震源とする元禄地震と呼ばれているマグニチュード8.2の大地震で海底が数メートル隆起して、現在のような陸続きとなりました。

この地に、慶応2年5月（西暦1867年）、江戸幕府による江戸条約により神奈川県にある観音崎ほか7ヶ所に灯台建設の取り決めで建設されました。

このようなわけで野島埼灯台は観音崎灯台と共にわが国最古の歴史がある灯台です。

野島埼灯台の初点灯は観音崎灯台の点灯約1年後の明治2年12月18日（西暦1869年）です。

ですが、実を申しますと、その前に野島埼において木製の仮灯台が建造され灯火を点じていたという事実があります。



野島埼俯瞰

← 前へ · 次へ →

2. 江戸条約について

ここで江戸条約について、簡単に説明しましょう。

江戸条約とは幕末、諸外国と締結してしまつた不平等条約を解消するために、慶応2年5月13日（西暦1866年）、徳川幕府全権水野忠精とアメリカ、イギリス、フランス及びオランダ4カ国代表が江戸で調印した旧税則の関税率軽減と貿易の制限撤廃を主眼とする条約で改税条約とも呼ばれています。

この中の第11条に「日本政府（江戸幕府）は外国交易のため開きたる各港最寄船に出入安全のため灯明台、浮木、瀬印木を備ふべし」とあり、航路標識の設置が義務づけられ、これにより観音崎（神奈川県横須賀市）、剣崎（神奈川県三浦市）、野島埼（千葉県南房総市）、神子元島（静岡県下田市）、樫野埼（和歌山県串本町）、潮岬（和歌山県串本町）、伊王島（長崎県長崎市）、及び佐多岬（鹿児島県南大隅町）の建造を約束しました。

← 前へ · 次へ →

3. 野島埼灯台の着工等について

江戸条約の中で灯台の建造を約束したもののひとつである野島埼灯台は、江戸幕府から明治政府が引継ぎ、明治元年11月（西暦1868年）に着工、翌明治2年12月（西暦1869年）に竣工し、満1年の工程を経て、同年12月18日初めて灯火を点じました。

← 前へ · 次へ →

4. 主要な灯台を建造した外国人技師について

日本の主要な灯台を作ったのはフランソワ・レオンズ・ヴェルニー氏（フランス人）とリチャード・ヘンリー・ブラントン氏（イギリス人）です。



ヴェルニー

ブラントン

そのころの日本人は誰も西洋の灯台を見たことがなかったので、江戸幕府はイギリスに灯台のレンズや機械の買入れと指導を頼んでいました。

幕府は、急遽フランス政府にも灯台建造を依頼し、当時すでに来日し横須賀製鉄所（あとに造船所となる）の建造に当たっていたフランス人土木技術者ヴェルニー氏に灯台の建造を命じました。

ヴェルニー氏が作ったのは観音崎灯台、野島埼灯台、品川灯台及び城ヶ島灯台の東京湾の周りの4ヶ所だけで、その後、製鉄所の仕事に専念しています。

一方イギリス人のブラントン氏はそれ以外の灯台32ヶ所と灯船2隻を作っています。余談になりますが、幕末から明治維新にかけて日本の近代化を支援したヴェルニー氏を記念してヴェルニー公園が神奈川県横須賀市にありますので機会がありましたら、ぜひ訪れてみてください。

← 前へ · 次へ →

6. 野島埼灯台付属施設について

船舶が多くなり航海術が発達するに伴い、視界制限時に光りの標識だけでは危険なため、音響による標識として明治36年6月10日（西暦1903年）、手動爆発霧信号を設置して、毎15分間隔で火薬を爆発させて霧中の船舶に警報を与える業務を開始しています。また大正2年6月（西暦1914年）、農商務省からの嘱託により海洋気象観測を開始しました。

大正2年11月、（西暦1914年）野島埼灯台沖1海里に水中音信号浮標1個を設置して（大正4年12月24日撤去）、さらに船舶の運航に安全を加えました。大正14年8月31日には、爆発信号を改め、石油エンジンにより圧縮空気を作り、吹鳴する霧信号装置になりました。

さらに昭和28年7月31日に石油エンジンから電動機に改良されています。

← 前へ · 次へ →

時系列ごとに12枚のスライドの続きは下記のとおり。

7. 野島埼灯台付近の海難について

野島埼灯台から西へ、東京湾に入る布良鼻にかけては、昔から沖合に岩礁が多く、座礁による遭難事故が相次ぎ海の難所といわれていました。
野島埼灯台付近では大きな座礁事故が2件発生しています。
ひとつは明治40年3月3日(西暦1907年)午後4時過ぎに、シアトルから横浜に向っていた23,000トン、347名乗船の大型貨物船「ダコタ号」が灯台の東側約4kmで座礁事故を起こしましたが、全員地元の人により救助され、乗客、乗員を旅館、寺院、民家などに分宿させています。
このとき乗組員は救助に来た地元の人に対して海賊の来襲かと勘違いして船内を逃げ回っていたエピソードがあったそうです。
乗客、乗員は同年3月5日に日本郵船の博愛丸で横浜に向っています。
もうひとつは、明治44年7月27日(西暦1911年)、午前6時頃に同じような海域で423名乗船のエンプレス・チャイナ号6,000トンが濃霧により航路を見誤り座礁事故を起こしています。白浜村の漁船で救助され、一旦寺や小学校に収容された後、同日夜、館山湾に停泊していた練習艦宗谷で横浜港へ向っています。
どちらの事故も乗船者全員救助されています。

← 前へ · 次へ →

8. 関東大震災の被害について



震災で倒壊した野島埼灯台

野島埼灯台は大正12年9月1日(西暦1923年)午前11時58分、関東地方を襲った関東大震災により、大音響と共に倒壊してしまいました。基礎上、約6mのところでの折損でした。
初代野島埼灯台竣工から50有余年、歴史の中でその役割を果たしてきましたが、その労を富むものを惜しんでも惜しみきれません。
これと共に一切の文献、資料もなくなっていました。

この地震により観音崎灯台を初め東京湾周辺の航路標識がほとんど全滅しましたが、唯一、犬伏崎灯台だけが残っています。
野島埼灯台の近くにある洲崎灯台も灯塔に亀裂等の被害がありましたが、倒壊は免れています。

← 前へ · 次へ →

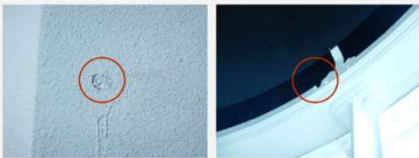
9. 無線標識について

昭和5年2月9日(西暦1930年)、20世紀科学の粋である無線装置を整備した無線方位信号所が新たに設置されました。
昭和7年2月11日(西暦1932年)から無線標識業務を開始しています。
昭和8年9月15日(西暦1933年)から、当時は羅針業務と呼ばれていた通航船舶から呼出符号JLAの無線での呼び掛けに対し、野島埼灯台からのその船の方向を知らせる業務を実施しています。

← 前へ · 次へ →

10. 太平洋戦争当時について

昭和16年12月8日(西暦1941年)太平洋戦争が始まりましたが、終戦に近い頃、野島埼灯台上空を数十機のB-29重爆撃機編隊が往復していたそうです。
野島埼灯台は敵戦闘機の格好の攻撃目標物になってしまい灯塔上部は銃撃により蜂の巣のように折射玻璃等、破壊されてしまいました。レンズは完全に破壊され使用できなくなりました。
ほんの一部ですが、現在でも灯塔及び灯台玻璃の鉄骨の部分に弾痕が残っているのが確認できます。



さらに昭和20年7月18日(西暦1945年)、午後11時52分、アメリカ巡洋艦4隻による艦砲射撃240発を受け、野島埼灯台周辺に37発の着弾を認めています。
そして、昭和20年8月15日(西暦1945年)の終戦を迎えました。

← 前へ · 次へ →

11. 終戦後について

終戦後、昭和21年1月(西暦1946年)より1000ワット裸電球を不動灯(常時点灯)として取り付けています。
戦後のいわゆる資材の欠乏を克服して徐々に機器を復旧、昭和22年11月25日(西暦1947年)、第2等単閃光型レンズを取り付け復旧しています。
昭和23年6月1日(西暦1948年)、海上保安庁発足と共に灯台局から同庁灯台部所轄となり海上保安業務の片翼を担うようになりました。
昭和28年7月31日(西暦1953年)、霧信号装置が石油エンジンから電動機に改良され、毎50秒ごとに5秒間、吹鳴されるようになりました。
昭和28年8月1日(西暦1953年)より灯台、霧笛、無線、管理標識等を総合して野島埼航路標識事務所と改名しています。
昭和31年5月1日(西暦1956年)より船舶気象通報業務を開始しています。毎時37分から2分間、天候・風向・風速・海上模様(波・うねり)・視程を放送するようになりました。

← 前へ · 次へ →

12. 平成以降

平成4年6月30日(西暦1992年)、野島埼霧信号所を廃止しています。
平成4年11月30日(西暦1992年)、野島埼無線方位信号所を廃止しています。
航路標識事務所は平成18年度で完全に閉鎖され、野島埼灯台は無人工化されました。
平成31年2月(西暦2019年)には霧信号所の建物は解体され、現在は、さら地となっています。
野島埼霧信号所は昭和の終わりの年に最後の吹鳴を終え、平成の最後の年に建物が解体されました。



霧信号所(現在は解体済)

← 前へ · 次へ →

survey 02

ツアー造成と収益事業化検証

◆ガイドングスクリプトの作成

モニターツアー実施にあたり、今後の野島埼灯台のガイド育成のため、灯台女子 不動まゆう氏へ依頼し、スクリプトの監修をいただいた。監修いただいたスクリプトの抜粋は下記のとおり。

野島埼灯台夜間特別開放！
灯台 & 星空観察会



灯台の点灯 メタルハライド電球による宝石時間



点灯直後：エメラルド



数分後：ダイヤモンド

▲野島埼灯台が建設された背景や役割など、野島埼灯台にまつわる構成に仕立てた。



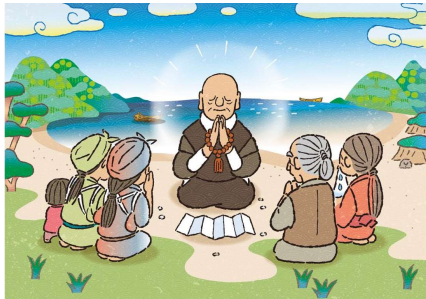
◀監修いただいたスクリプトを活用し、灯台女子 ビクセン引地道子氏がガイドをしている様子。

南房総エリア・野島埼灯台と星空の関係性をより深く知るため、南房総市観光協会のHPに、布良星(カノープス)の伝説も掲載した。作成した絵は下記のとおり。



昔々、青木（現在の南房総市白浜町）と呼ばれる海辺の長閑のどかな村に、西春法師という一人のお坊さんがこの世に生を受けました。

お父さんと一緒に漁師として働いていた若き西春法師は、小さな頃から空を飛んだり、海の上を歩いたりと不思議な力の片鱗を見せていたそうです。

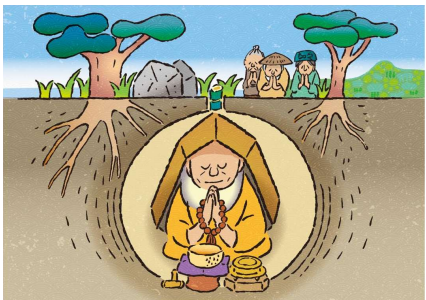


その後、十九歳で出家し、諸国を回り修行を積み、二十九歳の頃に立派なお坊さんとなって南房総へ戻って来ました。

村人に仏法を説きながら過ごしていた西春法師は、村の生計を支える漁師たちの度重なる海難事故に大変心を痛めました。



南房総沖の漁場は海が荒れやすく、お父さんや多くの海の男たちが帰らぬ人となっていたのです。それに悲しんだ西春法師は、海を鎮め、漁の安全を祈るため、自ら「入定（にゅうじょう）〈即身仏となること〉」を決意しました。



その後300日間、木の実や草だけを食す「木食行」を経て、地中深くに設けられた石室の中に入り、こう言いました。『石室の中から鉦（かね）の音が聞こえなくなったら、三年後に掘り出して堂内に安置して欲しい』と。石室で入定の行に入り、幾日かの時が流れ、鉦の音はとうとう聞こえなくなってしまいました。

それから三年・・・、四年・・・、五年・・・と、いくつもの年月が流れていったのですが・・・

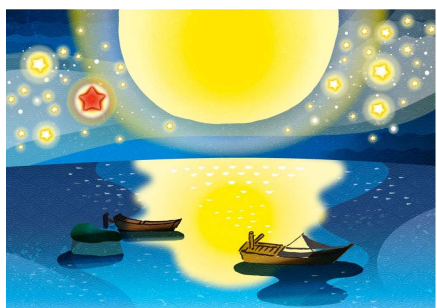
南房総エリア・野島埼灯台と星空の関係性をより深く知るため、南房総市観光協会のHPに、布良星(カノープス)の伝説も掲載した。作成した絵は下記のとおり。



「即身仏」が眠るこの場所を畏れ敬っていた村人は、長い間、誰も近寄らなかったため、西春法師との約束をすっかり忘れてしまっていたのです。『やれやれ仕方ない』と、西春法師の魂は肉体を離れて天に昇り、そのまま南の空に輝く星となって、村人たちを見守ったのでした。



昔からマグロの延縄（はえなわ）漁（※1）が盛んだった南房総。冬は海が度々大時化しけとなり、多くの漁師たちが命を落としていく中、それでも生活のため冷たい波風に耐えながら危険な漁に出ていました。ある日の夜、漁師たちは南の空の水平線近くに、赤く輝く星を見つけました。いつもは見えない星が出現したことを不思議に思いましたが、翌日は綺麗に晴れていたためいつものように漁へと出て行きました。ところが沖合に出て、いざ延縄（はえなわ）を下そうとした途端、空がみるみると曇りだし、海が荒れ狂い始めたのです。漁師たちは命からがら港へと戻りました。漁師たちは前日に見た星を「西春法師が天に昇って見守っている」ことを思い出し、「西春法師が星となって現れることで、海が荒れるのを教えてくれているのだ」と広く言い伝えたそうです。



この物語は永くこの地域に伝承され、この赤い星を見つけた次の日は漁に出ないようにしたと言われています。漁師たちはこの赤い星を、海で亡くなった仲間たちの魂が西春法師に供養され美しく輝く様子として重ね見て、このあたりの地名をとって「布良星（めらぼし）」と名付けたのだそうです。

・・・そして現在、

「布良星」は南房総の星空観測における一番人気の星となり、赤く輝きながら漁の安全を今日まで見守り続けています。また、西春法師の石棺があるとされる場所は「西春法師入定塚」（市指定文化財）（※2）として大切に保存され、毎年4月15日には「入定まつり」が開催されています。

南房総エリア・野島埼灯台と星空の関係性をより深く知るため、南房総市観光協会のHPに、布良星(カノープス)の伝説も掲載した。

※1. 鮎延縄船 安房節 発祥の地

この地では、かつてマグロ漁が盛んに行われていました。マグロ漁は晩秋から厳冬期にかけてが最盛期で危険も多く、海難事故が相次ぎました。

その厳しい自然の中、不眠不休で働く漁師たちが、お互いを励まし合い、勇気を出すために歌い始めたのが安房節と言われています。

大正初期で終焉したマグロ漁ですが、その祖先の偉業を顕彰し後世に残すために建立された記念碑があります。



※2. 西春法師入定塚

寛文7(1667)年3月18日、31歳の時に300日の不食行を終えた西春法師が入定の行に入ったとされる場所が、南房総市指定文化財の「西春法師入定塚」です。「土中より鉦の音が聞こえなくなったら三年後掘り起こし堂内に安置してほしい」と言い残した西春法師ですが、鉦の音が聞こえなくなった後も村人は恐れ手を触れることなく、現在に至るとされています。毎年4月15日に「入定まつり」が開催されています。



カノープスを見つけよう

南房総は、カノープスを見るのに適した環境です。

よく晴れた夜に、南の空が開けた場所で、冬の大きな星やおおいぬ座のシリウスを目印にして、南の地平線すれすれに姿を現すカノープスを探してみましょう。



布良星は、りゅうこつ座の1等星「カノープス」です。南房総の漁村「布良」でよくみられることから『布良星』とも呼ばれています。カノープスは、日本(北日本を除く)では、南中の時でも地平線すれすれの低空にしか見えない星です。北日本では地平線より上に昇らないため、見る事ができません。また、地球の大気の影響を受けやすい空の低い場所に位置するため、本来より暗く赤っぽい色で見えます。(出典: 国立天文台(カノープスを見つけよう))

一目見ると寿命が延びると言われている縁起の良い星『カノープス』。冬の一時期に限られますが、南房総はこの星を見ることが出来る数少ない場所で、星空観察に適しています。南房総の漁村「布良」でよくみられることから『布良星』とも呼ばれる、このカノープス探しに挑戦してみましょう。



ツアー造成と収益事業化検証

◆モニターツアーの実施

合計3回のモニターツアーを実施した。

《1回目と2回目はほぼ同一の内容》

野島埼灯台夜間特別開放！ 灯台&星空観察会

1回目：9月21日・22日にモニタツアー開催

【概要】 定員 20名×2日

金額 4,980円/大人(中学生以上)1名あたり・1,980円/子ども1名あたり・未就学児/無料

【実績】 参加人数：2日間で合計 10名（集客率25%）

【当日の天候】 21日は曇天で星が見えず星空観察は室内プログラムを実施
週間予報から悪く、参加実績に大きな影響を与えた

2回目：11月3日にモニタツアー開催

【概要】 定員 20名×1日

金額 4,980円/大人(中学生以上)1名あたり・1,980円/子ども1名あたり・未就学児/無料

【実績】 参加人数：23名（うち、子供は2名）（集客率115%）

【当日の天候】 星空観察会の直前に雲が抜けて良い状況で実施できた。
前回9月と異なり事前天気予報等によるキャンセルは無かった

1回目・2回目の実施スケジュールは下記のとおり。(11月の灯台ガイディングはビクセン引地道子氏が担当した)

<野島埼灯台夜間特別解放！灯台&星空観察会>

①2024年9月21日(土)及び22日(日) 日帰り<Aグループ>

日付	集合場所・解散	時間	行程
2024年 9月21日 (土)・22日 (日)	南房総市・ 野島埼灯台	16:45 17:00~ 20:00	<p>集合</p> <p>■イベント実施時間 17:00~20:00 (3時間)</p> <p>野島埼灯台にて、灯台女子の不動まゆうさんによる灯台解説と、望遠鏡メーカースタッフによる天体望遠鏡と双眼鏡を使った星空観察会を、お楽しみいただきます！</p> <p>※雨天時は灯台見学の後に、白浜オーシャンリゾートの会場に移動し、星空室内プログラムを実施いたします。</p> <p>その場合、返金等はありません。雨天時イベント時間 灯台見学1時間と白浜オーシャンリゾートへの移動と休憩時間の15分間をはさみ、室内星空解説を45分間実施します。</p>

②2024年9月21日(土)及び22日(日) 日帰り<Bグループ>

日付	集合場所・解散	時間	行程
2024年 9月21日 (土)・22日 (日)	南房総市・ 野島埼灯台	17:15 17:30~ 20:00	<p>集合</p> <p>■イベント実施時間 17:30~20:00 (2時間30分)</p> <p>野島埼灯台にて、灯台女子の不動まゆうさんによる灯台解説と、望遠鏡メーカースタッフによる天体望遠鏡と双眼鏡を使った星空観察会を、お楽しみいただきます！</p> <p>※雨天時は灯台見学の後に、白浜オーシャンリゾートの会場に移動し、星空室内プログラムを実施いたします。</p> <p>その場合、返金等はありません。雨天時イベント時間 灯台見学1時間と白浜オーシャンリゾートへの移動と休憩時間の15分間をはさみ、室内星空解説を45分間実施します。</p>

夜間特別開放！ 野島埼灯台×星空撮影会

3回目: 12月21日にモニタツアー開催

【概要】 定員 20名 / 1日
金額 8,500円/大人のみ

【実績】 参加人数：20名（集客率100%）
※内13名が天文サークルの大学生の参加

天気予報での荒天予報が的中したが、キャンセルもなく多くの方にご参加いただきました。星空撮影を主とした参加した方が多い中での灯台の夜間開放は、新たな灯台ファンを創出できたと考えている。



後日、参加者より提供いただいた野島埼灯台×星空の写真

ガイド 星景写真家 北山輝泰

星景写真家兼ビデオグラファー。1986年東京都生まれ。日本大学芸術学部写真学科卒業。

その後福島県に移住し天文インストラクターを経て、天体望遠鏡メーカーで営業マンとして7年間勤務後、星景写真家として独立。

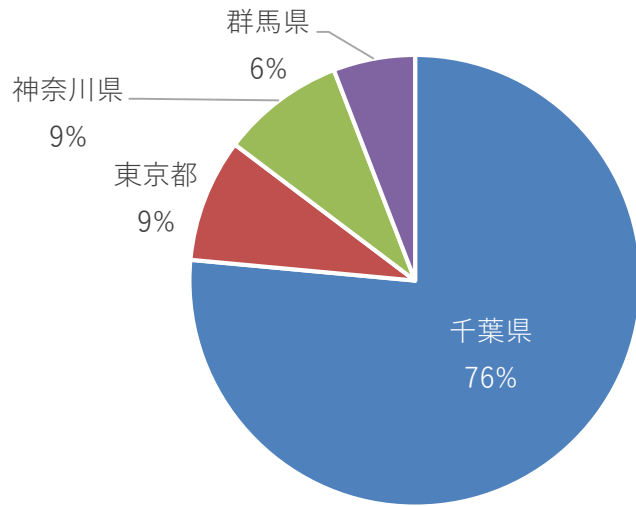
現在は天文雑誌「星ナビ」のライターをしながら、全国で写真講師の仕事、OM SYSTEM ゼミの講師、ソニーαアカデミー銀座校、大阪校、オンライン校にて定期的に授業を行う。2018年より星景写真を始めとした、夜の被写体の撮影について座学・実習を通し学ぶ「ナイトフォトツアー」の運営を始める。2024年野島埼灯台と星空のタイムラプスムービーを撮影・製作。



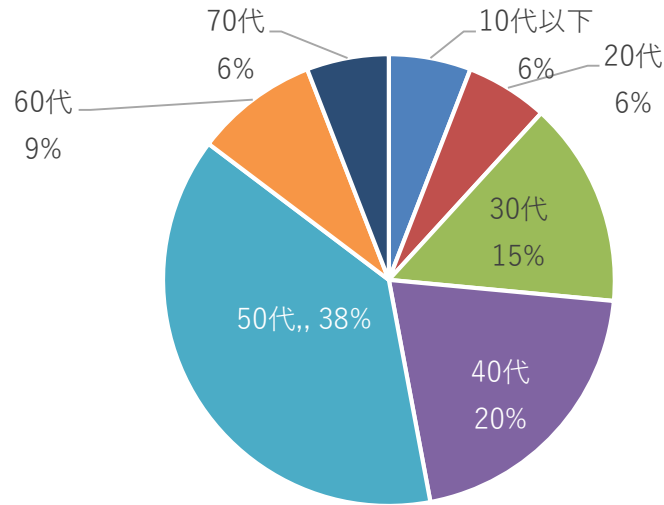
モニターイベント アンケート集計結果 実施日:2024年9月21日/22日・11月 参加:34名 有効回答数:21名

I あなたのことについてお伺いさせていただきます

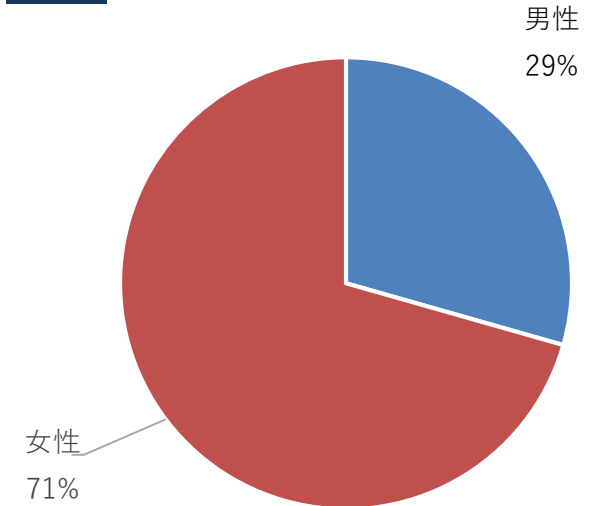
居住地



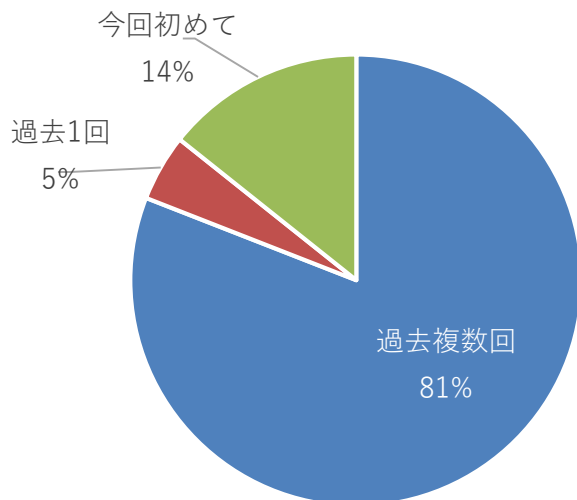
年齢



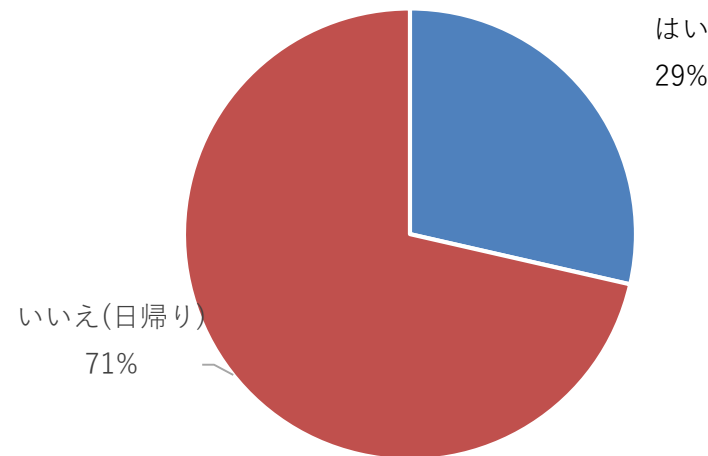
性別



訪問回数



イベント参加後の南房総エリア宿泊



<宿泊施設>

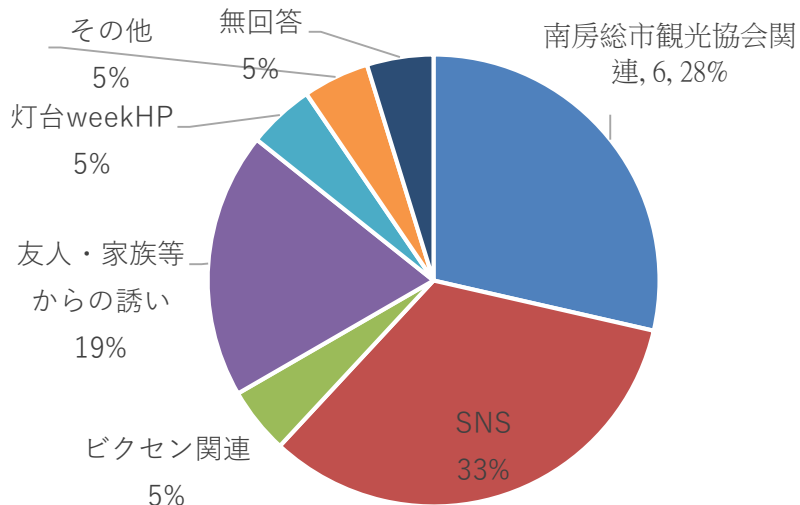
- ・ツネホテル
- ・三日月イン
- ・ルートイン木更津
- ・サウナビレッジたてやま

南房総の宿泊率は約8%と言われており、今回のイベントでは有効回答数のうち、宿泊率約30%となった。また、通常群馬県からの宿泊は1%程度であることから、本事業は宿泊率向上に寄与したイベントであった。

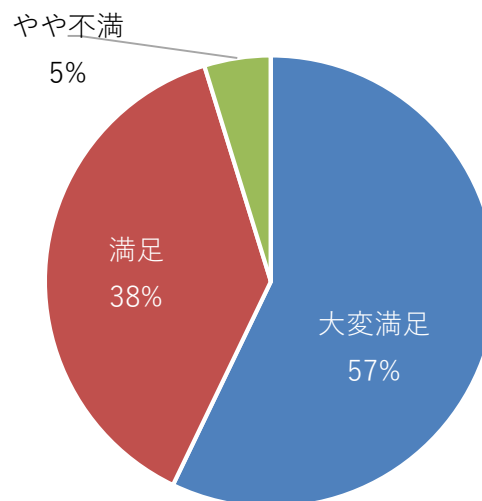
モニターイベント アンケート集計結果 実施日:2024年9月21日/22日・11月 参加:34名 有効回答数:21名

II 本イベントの感想

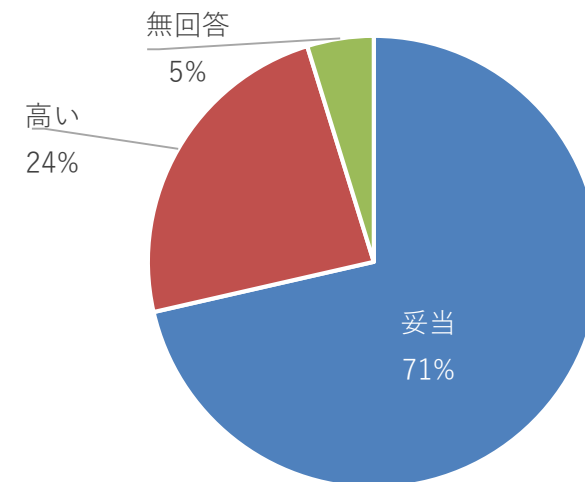
参加のきっかけ



満足度



参加費について



- ・値段がもう少し安ければ参加しやすい
- ・妥当だと思うけど、もう少し安くても良い
- ・場所や人件費を考えると妥当

最も印象に残ったこと

- ・灯台のレンズ部分に入れたこと
- ・灯台のライトがある場所まで入れたのは貴重な経験になりました。
- ・星がとてもきれいに見えました！
- ・夜の灯台に登れたこと、点灯、全て。星の話
- ・土星が見えたこと。
- ・点灯中のライトを間近で見せていただきありがとうございました。今夜は星がよく見えて良かったです。
- ・灯台のレンズが回転しているのを見れた。
- ・灯台のライトのすぐ近くまで行くことができ、想像以上でした。
- ・エメラルドタイムがよかった。
- ・土星・水星面白いです。

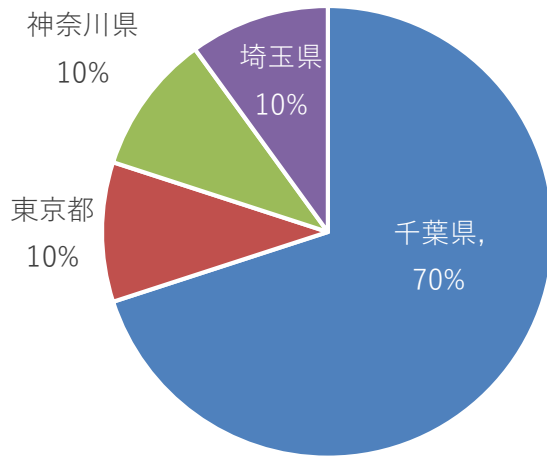
参加後の感想

- ・天候にも恵まれて、とても楽しかったです。
- ・灯台にのぼる機会がなかったので、楽しかったです。
- ・なかなか聞く機会のない話で、とても分かりやすかったので、楽しく参加ができました。星の解説も楽しかったです。
- ・良いイベントだと思います。12月も楽しみにしています。
- ・とても楽しかったです。写真撮影イベントも参加してみたいです。
- ・天気が心配でしたが、とても晴れて素敵な夜になりました。
- ・いつも入ることができない場所に入れたので楽しかったです。
- ・海保の方にお話を聞いて楽しかったです。貴重な文化を丸と大切なお仕事だと感じました。野島埼灯台・南房総市の魅力を存分に感じました。また、ゆっくり来ようと思います。土星やアトラス彗星を見せていただいた。灯台女子の方の説明もとても分かりやすく、灯台への愛を感じた。

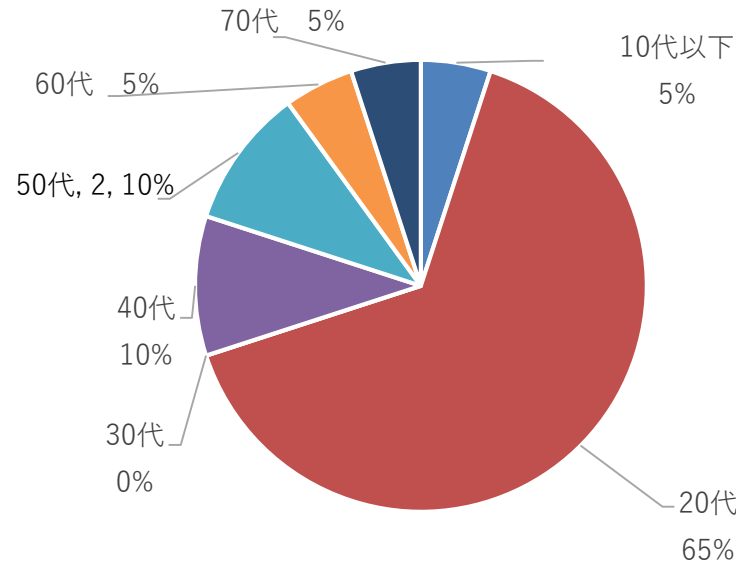
モニターイベント アンケート集計結果 実施日:2024年12月21日 参加:20名 有効回答数:20名

I あなたのことについてお伺いさせていただきます

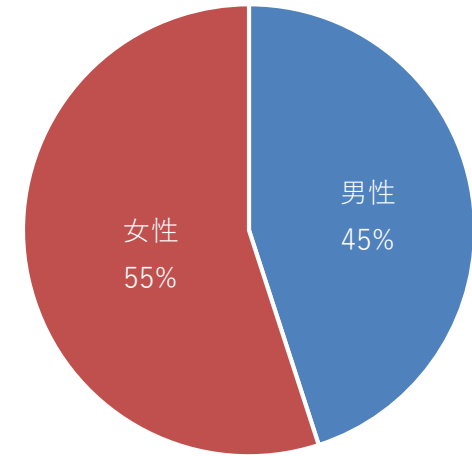
居住地



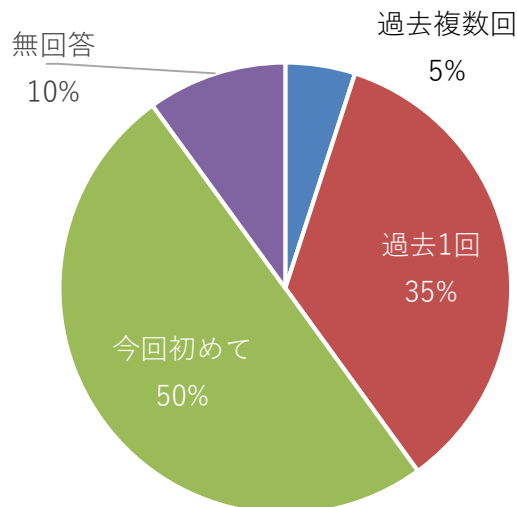
年齢



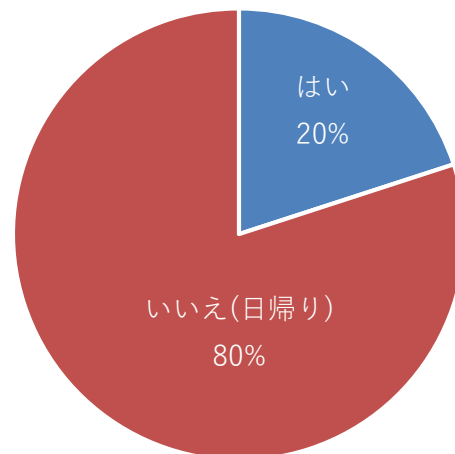
性別



訪問回数



イベント参加後の南房総エリア宿泊



<宿泊施設>

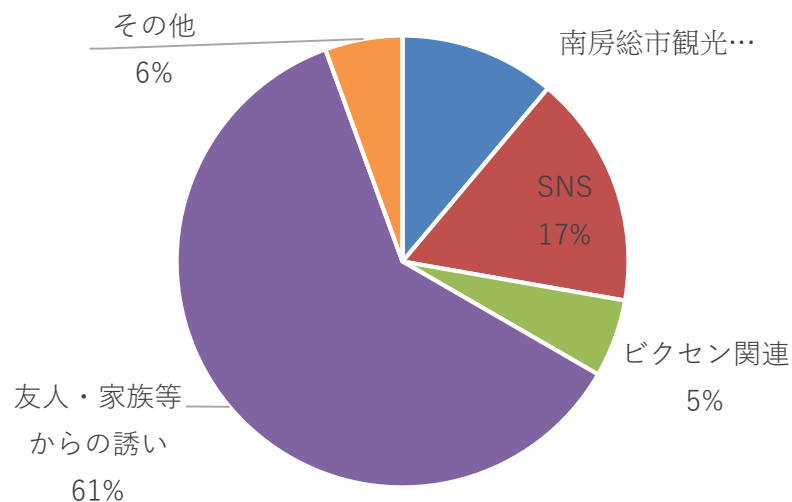
- ・南海荘
- ・白浜オーシャンリゾート

両施設は灯台から徒歩圏内に位置しており、灯台を核とした宿泊の誘客につながっている。

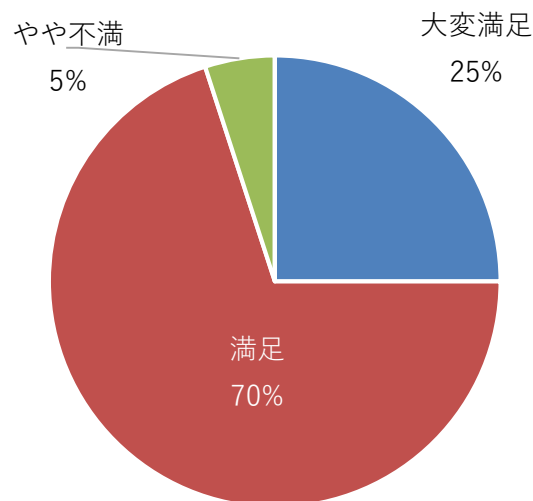
モニターイベント アンケート集計結果 実施日:2024年12月21日 参加:20名 有効回答数:20名

II 本イベントの感想

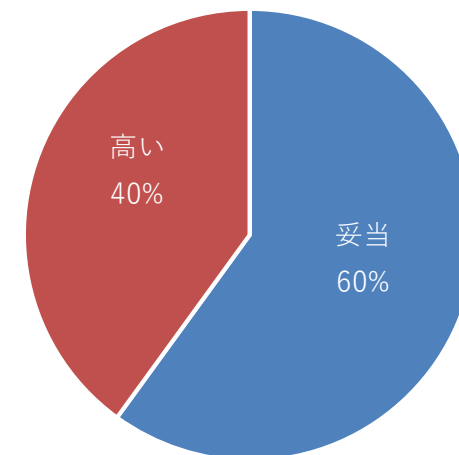
参加のきっかけ



満足度



参加費について



- ・値段がもう少し安ければ参加しやすい
- ・天気が良くなければ高いと感じる
- ・カメラマンの講義があれば妥当と感じる

最も印象に残ったこと

- ・星空の撮影で大事にすることが、何を撮りたいか事前に決めるかということをおっしゃっていたこと。
- ・カメラの設定や写真の撮り方への理解が深まったこと。
- ・自分でもカメラの購入を考えているので、レンズ選びが大切ということが最も印象に残りました。
- ・実際に星景写真を撮影されている写真家の方に、非常に詳しく教えていただけて興味深かった。
- ・夜動いているレンズを見れたこと。
- ・写真の明るさをヒストグラムで確認できることを初めて知ったので驚きました。
- ・月と火星と金星が並ぶ星景写真・灯台を実際に見れたこと
- ・カメラについて学びたいと考えていたので、タイムリーでした
- ・北山カメラマンの話をもっと聞きたかった。データの編集方法や保存方法など。

参加後の感想

- ・天候の不運は仕方ないが、直前でキャンセルできるような設定を考えほしい。
- ・天気が残念だったが、楽しい時間でした。
- ・ビクセンの方のお話が聞ける貴重な機会となった。灯台と星を撮るときのポイントを知りたかったです。
- ・野島埼灯台は日の入り後に点灯します。



ツアー造成と収益事業化検証

◆野島埼灯台の星空タイムラプスムービーの製作

合計3本の動画を作成。完成したタイムラプスは、南房総市観光協会・近畿日本ツーリストLP内に掲載



【千葉県・南房総】で、星空観察 ～野島埼灯台はたくさんの船の航行の安全を守り続けている～



※天候により、星空が見られない場合がございます。あらかじめご了承ください。

野島埼灯台のあゆみ ～野島埼灯台150年の軌跡～

<https://www.cm-boso.com/nojimazaki2024.html>

(南房総市観光協会のページへ遷移いたします)

参考：掲載期間中（2024年8月～2025年3月）のPV数
1371PV

南房総市観光協会のHP内に星空の情報も掲載した。

星のソムリエ オススメ～南房総で星空を見るべき4つの理由～

4 Reasons to See the Stars in Minamiboso

- ・星の綺麗さ（肉眼で天の川が見える）**
 南房総市での「夜空の明るさ」を示す指数は『20.8』。天の川の複雑な構造が確認できる『21以上』に近く、20以上21未満の「天の川がよく見られる」地域に該当します。
- ・アクセスの良さ**
 都心から南房総市まで、アクアラインを通り車で2時間弱で行く事が出来るほどアクセスが良いです。そして海岸線沿いに公園や駐車場、道の駅が多くあり、観察場所の近くに車を止め置き出来ます。レジャーシートやアウトドアチェア、望遠鏡やカメラ、三脚など、荷物や機材の多い人にも安心です。
- ・広い視野を確保できる**
 房総半島の南端のため、東・南・西と視野を広く確保することができます。そのため、街中や山の中では周りの景色が邪魔をして、空の低い位置にある星は隠れてしまうことが多いですが、海岸からは空の低い場所に位置する星もしっかりと見ることが出来ます。また、空全体を見渡す流星群観察はもちろん、日の入・日の出によるマジックアワー、月の入・月の出によるムーンロードなど美しい空模様も見ることが出来ます。
- ・変わった地形が多い**
 房総半島では、太平洋プレートやユーラシアプレートがぶつかり合い、押し上げられた地層が波によって浸食されることで、南房総の海岸沿いには変わった形をした岩や地形が多く存在します。そんな景観地と合わせて星を眺めたり、星景写真を撮影する楽しさもあります。

流星群は毎年同じシーズンにやって来る

流星群は、彗星が通った跡に残っていた、たくさんの塵が地球にぶつかることで多くの流れ星が流れる現象です。そのため、流星群は毎年同じ時期にやってきます。毎年安定して多く流れる次の三つの流星群を三大流星群と言います。

	流星出現時期	極大日（一番多く流れる日）
しぶんぎ座流星群	12月28日-1月12日	1月4日頃
ペルセウス座流星群	7月17日 - 8月24日	8月13日頃
ふたご座流星群	12月4日 - 12月17日	12月14日頃

出現時期や極大日は毎年少しずつ前後します。当日の月の見えている時間帯や天気によって、見やすさは変わります。詳しくはこちらのホームページでお調べください。

国立天文台「流星群について」
<https://www.nao.ac.jp/astro/basic/major-meteor-shower.html>

流星電波観測国際プロジェクト
https://jpn.iprmo.org/meteor-info/meteorvisual_j.html

国立天文台「暦の計算室」
<https://eco.mtk.nao.ac.jp/cgi-bin/koyomi/koyomix.cgi>

野島埼灯台 天気詳細ページ

野島埼灯台 (南房総市)の天気予報 詳しくみる

今日	7日間天気予報							14日間先までの天気予報を見る						
時間	13	14	15	16	17	18	19	12(土)	13(日)	14(月)	15(火)	16(水)	17(木)	18(金)
天気														
気温	22℃	22℃	22℃	21℃	20℃	19℃	18℃	18℃	18℃	17℃	17℃	17℃	17℃	17℃

[アウトドア天気.JP](#)

野島埼灯台で流星群を観よう！

Watch meteor showers at the Nojimasaki Lighthouse!

野島埼灯台と共に美しい流れ星を観察してみませんか？
 野島埼灯台の周りは星の明かりが美しく、周りの空が開けているため、流星群観察にぴったりです。流星群を観察するときのポイントは2つ！

- 1つ目：空全体を見渡すこと。流れ星は空全体どこにでも現れるので、一部分だけでなく、空全体を眺めることが大事です。
- 2つ目：長い時間観察すること。暗い所に人の眼が慣れるまで約15分かかるとされています。目が慣れてから、1～2時間以上観察すると見つけやすいです。

流星群観察おすすめスポット

駐車場から観察スポットまで歩いて数分で行く事が出来ます！
 レジャーシートやアウトドアチェアを持って、訪れてみませんか？
 岩場のあたりは足元が暗いので、赤いフィルムを貼ったライトで照らしながら歩いてください。



調査検証の目標～明らかにしたい仮説

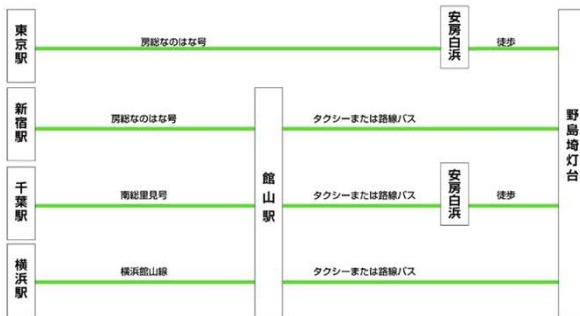
「野島埼灯台×星空」イベントは収益化と継続実施が可能で、実施により、南房総市のナイトタイムエコノミー促進に資するののか？

◆仮説の検証の結果

ナイトタイムイベントを実施する場合は、交通アクセスも課題となっており、タクシー会社との連携を検証。南房総市観光協会のHP内に交通・宿泊施設の掲載し、東京駅から乗り換えなしで到着可能であることの周知を行った。もともと、南房総エリアの宿泊率は全体の約8%と首都圏とのアクセスの良さから日帰客が大多数を占める数値となっているが、本事業においては参加者の宿泊率が20%~30%と高い割合であったため、イベント実施によりナイトタイムエコノミー促進に寄与するという結果となった。

次年度以降は、周辺宿泊施設との連動を深化させた取り組みや、旅行会社とのタイアップが必要との考えに至った。

高速バスでお越しの場合



- 東京駅→(房総なのはな号:約1時間50分)→館山駅→安房白浜→徒歩5分→野島埼灯台
- 新宿駅→(房総なのはな号:約2時間)→館山駅→タクシーまたは路線バス(日東バス、JRバス関東:野島埼灯台口下車)
- 千葉駅→(南総里見号:約1時間45分)→館山駅→(南総里見号:約40分)→安房白浜→徒歩5分→野島埼灯台
- 横浜駅→(横浜館山線:約1時間45分)→館山駅→タクシーまたは路線バス(日東バス、JRバス関東:野島埼灯台口下車)

- 日東交通**
南房総方面への高速バスの時刻表はこちらをご覧ください。(日東交通株式会社)
- JR** ジェイアールバス関東株式会社
路線バスについてはこちらをご覧ください。(ジェイアールバス関東株式会社)
- きょうほタクシー**
タクシーについてはこちらをご覧ください。(きょうほタクシー)

千葉県南房総市の宿泊情報
ツアーと合わせて、グルメ・温泉・くつろぎタイムを!

ちくらつなぐホテル



自然の宿 くすの木

満天の星が見られる宿「自然の宿くすの木」もぜひご覧ください

4.調査検証の成果

■地域住民のシビックプライド醸成

実施した夜間特別開放イベントに、多くの南房総エリアの住民に参加いただいた。今まで登ったことのない夜の灯台の魅力や、南房総エリアの星空の魅力を再確認し、シビックプライド醸成につながった。

■野島埼灯台利活用の可能性

イベントに参加したお客様の満足度が9割を超え、観光客を惹きつける魅力的なコンテンツであることを再認識した。

イベント参加者の宿泊にもつながり、夜間特別開放は地域内消費を拡大に寄与するものであった。

2025年に再点灯から100周年を迎えるが、海と灯台プロジェクトを継続申請をして、周年イベント等の実施を行っていく。

■千葉海上保安部と燈光会との連携強化

イベント実施にあたり、千葉海上保安部と燈光会と調整を図りながら事業を推進し、密な連携ができる関係を構築することができた。

■継続した灯台ガイド

“灯台女子”の不動まゆう氏に監修をいただき、灯台ガイドのスク립トを完成させた。灯台の持つ歴史・野島埼灯台が担った役割、灯台の光の美しさなどを解説し参加者からは好評をいただいた。今後のイベント実施継続のため、野島埼灯台でイベントを実施する際に活用をしていく。

■カノープスのブランディング(南房総エリアならではの星空の活用)

カノープスが観察できる地域特性を活かす想定であったが、観察できる期間が12月中旬から2月末に限定されることから、事業終了期限との兼ね合いを鑑み、ツアーでのカノープスの観察は断念した。次年度以降は、カノープスを観察できないシーズンに、カノープスを題材にした誘客の検討が必要。

■ツアー参加費について

星空観察会を実施している国内の観光地の参加費と比較すると、すでに上限価格を越える価格で販売ができた。今後は、実施内容の改良や新たな魅力発掘を進めて、さらなる高付加価値化を目指す。

■航路標識協力団体への登録

2025年2月14日に登録された。

課題

周辺の宿泊施設との連携の深化が必要



施策

OTA事業者をコンソーシアムに招聘
宿泊プラン造成等、具体的な施策に踏み込む。
地域と一体となったデータに基づく地域経営

地域内のある宿泊施設と連携強化を図り、加速度的な拡大を図りたい。

課題

カノープス以外で灯台×星の深化が必要



施策

カノープスは冬に見られる星であり、
他期間に集客できる新たな魅力を発掘する
来訪者への「マーケットイン」な取り組みを
実施する。

灯台×星×「新たな魅力」と、灯台×「新たな魅力」発掘

課題

天気予報の影響でキャンセル発生がある



施策

曇天時・雨天時の星空プログラムもしっかり
紹介し、星空プログラムは雨天時でも楽しめ
旨を明確に表記する。

雨天時の室内プログラムに参加した方の満足度も十分に高いことからPRすれば有効となる。
天候に左右されず、かつ昼夜灯台を絡めたコンテンツの造成が必要。

課題

南房総エリアを包括的に観光してもらえ
るような情報発信が必要



施策

すでに地域内で取り組んでいる観光施策を、
本事業と掛け合わせ、相乗効果を狙う。

灯台を核にして、「稼げる地域づくり」に寄与する施策を実施していく

プレスリリースの抜粋は下記のとおり。

野島埼灯台夜間特別開放！ 灯台&星空観察会を開催します！

2024年9月21日（土）・22日（日）

海と日本プロジェクト広報事務局 2024年8月30日 10時00分

野島埼灯台活用プロジェクト委員会（構成団体：一般社団法人南房総市観光協会・株式会社ピクセン・近畿日本ツーリスト株式会社）は、昨年大好評だった海×灯台×星のロマンを満喫できるイベント「野島埼灯台夜間特別開放！ 灯台&星空観察会」を今年も千葉県・南房総にある野島埼灯台で開催します。

このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を振り返り、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施します。



千葉県・南房総で星空観察～野島埼灯台はたくさんの船の航行の安全を守り続けている～
灯台は光や塔体で船乗り位置を示し、また、暗礁などの危険を知らせる「海の道しるべ」です。
星の光も、古来から「海の道しるべ」として灯台の光と同じ役割を果たしていました。

野島埼灯台の夜間特別開放！ 大好評イベント第2弾【参加者募集】灯台&星空観察会を開催します！

2024年11月3日（日） 会場／野島埼灯台（千葉県南房総市）

海と日本プロジェクト広報事務局 2024年10月4日 10時30分

野島埼灯台活用プロジェクト委員会（構成団体：一般社団法人南房総市観光協会・株式会社ピクセン・近畿日本ツーリスト株式会社）は、9月21日・22日実施も大好評のうちに終了した海×灯台×星のロマンを満喫できるイベント「野島埼灯台夜間特別開放！ 灯台&星空観察会」の第2弾を千葉県・南房総にある野島埼灯台で開催します。ふだんは見られない、夜の灯台レンズのきらめきや、海・星とのコラボレーション、ロマンあふれる物語を堪能できる貴重な機会です。

このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を振り返り、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施します。



野島埼灯台と星空。季節によっては、天の川もくっきり見えます。

千葉県・南房総で星空観察～野島埼灯台はたくさんの船の航行の安全を守り続けている～
灯台は光や塔体で船乗り位置を示し、また、暗礁などの危険を知らせる「海の道しるべ」です。
星の光も、古来から「海の道しるべ」として灯台の光と同じ役割を果たしていました。

【参加者募集】プロの星景写真家と一緒に撮影！「野島埼灯台夜間特別開放！ 灯台&星空撮影教室」を開催します！

2024年12月21日（土） 会場／野島埼灯台（千葉県南房総市）

海と日本プロジェクト広報事務局 2024年11月8日 11時30分

野島埼灯台活用プロジェクト委員会（構成団体：一般社団法人南房総市観光協会・株式会社ピクセン・近畿日本ツーリスト株式会社）は、星空専門のプロカメラマンのガイドを受けながら「海×灯台×星」の写真撮影会「野島埼灯台夜間特別開放！ 灯台&星空撮影教室」を千葉県・南房総にある野島埼灯台で開催します。海の道しるべとして親和性の高い「灯台と星」、それぞれの美しい輝きを1枚の作品に収めましょう。

このイベントは、日本財団「海と日本プロジェクト」の一環として、灯台を中心に地域の海の記憶を振り返り、地域と地域、異分野と異業種、日本と世界をつなぎ、新たな海洋体験を創造していく「海と灯台プロジェクト」の助成を受けて実施します。



ともに美しく輝く野島埼灯台と星空

《配信元一楽》

南房総市観光協会 Facebook / LINE エンジョイ房総

東京シティアイ

不動氏のインスタグラム

ニッポン放送NEWS ONLINE

gooニュース

ヤフーニュース

トリル

千葉県観光物産協会 ちば観光ナビ/公式X




房日新聞

のべ14媒体
リリース転載数:140

調査検証をふまえた 今後の展開案



事業背景1

ポテンシャル

-  **2025年は現存する野島埼灯台 点灯100周年**
1923年9月1日の関東大震災で倒壊し、1925年8月15日に現存する灯台が点灯開始。2025年は点灯から100周年を迎えることから、来年度は点灯100周年を記念したイベントを行っていく。
-  **都心からのアクセスの良さ**
都心から車で90分という立地を生かし、地域誘客を図っていく。日帰り客が大多数を占める課題に対して、宿泊を伴う施策は来年度も継続をしていく。
-  **南房総市に存在する観光素材**
野島埼灯台を核として、海・菜の花・道の駅だけでなく、星空保護区へ申請を進めている星空・南房総地域のアジ文化が文化庁に認定されている「100年フード」等を最大限に活用していく。

事業背景2

私たちが取り組む理由とねらい

-  **現存する野島埼灯台 点灯100周年をPRし、地域周遊を促進させるコンテンツを造成する**
野島埼灯台には年間約7万人の観光客が訪れており、この場所を核にした地域プロモーションはとても有効な手段と考えている。現存する野島埼灯台 点灯100周年を節目に、野島埼灯台をハブにした地域内周遊につなげ、南房総エリアに存在する観光素材と掛け合わせながら、「稼げる地域づくり」に寄与していきたい。
-  **地域がまとまるきっかけづくり**
地域の観光を取りまとめている南房総市観光協会は、2024年3月29日付で観光庁の「観光地域づくり法人(地域DMO)」に登録された。上述の「稼げる地域づくり」に寄与するため、様々な事業者が1つとなり、持続可能な観光地づくりのために日々取り組んでいる。そのなかで、現存する野島埼灯台 点灯100周年という節目をフックとして、地域全体がまとまり、南房総市民のシビックプライドの機運醸成を図っていく。

事業概要

祝！野島埼灯台 点灯100周年記念 灯台× X 実証事業

様々な要素を掛け合わせ、点と点ではなく、灯台を中心にして面で地域を盛り上げていく。掛け合わせる要素イメージは左記のとおり。

<掛け合わせる要素>

○灯台×星空

ナイトタイムエコノミー促進で地域内消費額を向上させる

○灯台×伝統・継承

野島埼灯台の歴史を後世に伝え、これからも地域との共存を図る

○灯台×データドリブン

稼げる地域づくりのためにデータを活用した灯台誘客を行う

○灯台×絶景

新たな観光コンテンツ造成を行う

○灯台×文化庁「100年フード」

アジ等の南房総エリアの文化と灯台の融合を図る

祝！野島埼灯台 点灯100周年記念 灯台× X 実証事業



熱源となる人たち
(核となる主体者)

野島埼灯台利活用プロジェクト委員会
一般社団法人南房総観光協会
近畿日本ツーリスト株式会社



熱源を支える人たち
(その他の主体者)

海上保安庁千葉海上保安部
燈光会
株式会社ビクセン
株式会社ONETAS 等



協力者

地域内
宿泊施設
交通事業者
飲食事業者

祝！野島埼灯台 点灯100周年記念 灯台× X 実証事業

新たな灯台利活用モデル事業が定義する「自走化4分類」のうち、本事業は以下を目指します

本事業が 目指す型	分類	自走化の方法	中心となる事業者
✓	I ビジネス型	灯台および付属施設等をホテルなどに利活用する、 または 灯台および周辺地域の魅力をコンテンツとして利活用することで、 <u>ビジネスとしての収益化を達成し、自走する。</u>	民間事業者
	II 非営利 収支均衡型	灯台及び周辺施設等を活用し、 イベント開催や観光ガイド等を組織しながら、主として、 <u>収支均衡となるような小規模の地域活性化事業を行い、 非営利団体として、自走する。</u>	非営利任意団体、 NPO等
✓	III 自治体 補助金型	自治体が主体となり、 新たに地域課題や観光資源の一つとして 灯台及び周辺施設等を位置づけることにより、 <u>自治体の予算やリソースが投入され、自走する。</u>	自治体
	IV お祭り協賛型	灯台に係るイベントを開催することで、 灯台を含むエリアの新たな価値と集客・PR効果を創造し、 <u>地元自治体や地域企業からの協賛金や、出店料、 参加者から入場料などの イベント収益によって、自走する。</u>	イベント事業者、 放送局

參考資料

